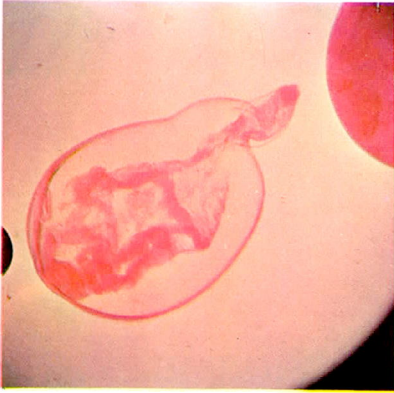


牧草の線虫(1)

農林省 北海道農業試験場 病理昆虫部
技官 湯原 巖

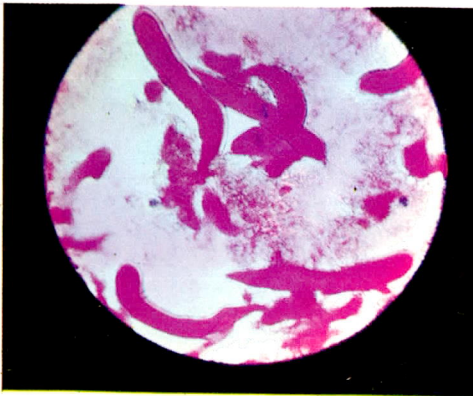


2) キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans*)

この線虫は古くから *Meadow Nematode* (草地線虫) とも呼ばれて知られ、主要牧草である赤、白クローバー、アルファルファ、チモシー等に寄生するばかりでなく、種々なイネ科、マメ科牧草に寄生する。また、普通農作物にも多く寄生し、その寄生範囲は極めて多数である。しかし、この線虫はネコブセンチュウのように根には「コブ」を形成しない。土壤中に浮遊する線状の小さな線虫(長さ0.5~0.6mm、幅0.02mm)が根に侵入し、養分を摂取して根組織を害し、褐変を生ずる。甚しい場合には根が衰弱し、もろくなり切れやすくなったり、敗腐させたりする。

写真(c) 雌成虫の体前部

(d) 根組織中に侵入している線虫



1) キタネコブセンチュウ (*Meloidogyne hapla*)

この線虫は古くから北海道にも知られ、植物の寄生範囲も広く、主要農作物であるん菜、まめ類、馬鈴薯、そ菜等に寄生し、牧草では赤、白クローバー、アルファルファに寄生し、その被害は大きい。しかし、イネ科の植物には寄生しない線虫である。この線虫は土壤中に線状の小さな2令幼虫(長さ0.42mm)が浮遊していて、寄主植物があるとその根に侵入し、発育して2.3令幼虫期をへて、西洋梨状の雌成虫(長さ0.4~0.7mm、幅0.4~0.5mm)になり、根に1~2mmの小さな円味状の「コブ」を多数形成し、甚しい場合は、植物の生育が不良となる。

写真(a) 「コブ」の中にある雌成虫

(b) 「コブ」の中にある3令幼虫

